

2022年度 遺愛女子高等学校遺愛女子中学校
学校評価 第三者評価報告書

今回の評価（第三者評価）は、コアネット教育総合研究所 川畑浩之氏に評価委員を委嘱して実施した。以下、そのレポートを掲載する。

2022年の学校評価は、以下の資料と3年ぶりに開催された6月18日（土）の中学校受験を対象とした「募集イベント」への参加、6月17日（金）教員へのヒアリング、また、校長と教頭を対象としたヒアリングを実施した。

そのほか、学校評価の窓口である教頭へのヒアリングの実施、また下記の資料を参考としながら、本レポートを作成した。

〔調査資料〕

- ・ 学校案内 中学校 2023年入学案内
- ・ 入試要項 中学校 2022年
- ・ 進路資料 2022年度
- ・ 2022年6月18日（土）中学受験のイベント配布資料学校評価関連資料一覧
- ・ 函館地区私立高等学校入学数
- ・ 函館私立8校入学数推移
- ・ 渡島第一学区中卒数
- ・ 高校3年生卒業間際アンケート 2022年3月
- ・ 教職員自己評価アンケート
- ・ 2022年度遺愛中学校オープンスクール配布資料（2022.6.18）
- ・ 2022年度遺愛女子中学校入試対策会 I 配布資料（2022.6.25）

1. 総合的な評価

（1）評価

これまでと同様に、進路実績や入学者推移やヒアリングや各種アンケートなどから地域に支持される教育を実践する学校であると評価できる。

本校は確かな進路を獲得することが生徒募集に繋がると考えている。学校の評価すなわち、生徒が本校を選ぶ理由は、「進学実績」「志望する進路の実現」が大きな点であるとしている。そのため、3年、6年間の教育活動の充実を図り、その実践を支える教職員の教科指導力を発揮する取り組みを行っている。

(2) 生徒募集を支えている「確かな進路実績」

これまでも本校は「確かな進路指導」から、十分な進路実績を出している。その成果を出すために、これまでのデータや卒業生の取り組みを整理した「進路資料」という冊子を発行して活用している。データ等に基づいた進路指導を行う点を評価する。

2022年4月から、高校でも新しい学習指導要領がスタートする。現在、進路指導計画や教科指導の在り方をアップデートしている。

(3) 2022年3月の進路結果・合格実績

卒業生 228名

合格実績および進路：国公立大学37名 私立大学218名 短期大学19名

看護大学28名 専修学校43名 就職5名

(4) 指定校推薦大学の一覧

遺愛の指定校推薦大学			
131 大学650名以上	29 短大110名以上	8 看護学校25名	
公立函館未来大学	1名	上智大学	1名
国際基督教大学	1名	同志社大学	2名
津田塾大学	2名	獨協大学	2名
東京理科大学	3名	東京女子大学	5名
明治学院	6名	北海学園大学	15名
中央大学	10名	北星学園大学	5名
青山学院大学	4名	北海道医療大学	13名
立教大学	1名	天使大学	2名
…など			

(学校説明会でのスライド)

これまでの取り組みが評価されて、上記のように「多くの指定校推薦の枠」を獲得できている。説明会では、進路を決めることができた高校3年生が「充実できた学校生活」を紹介されており、確かな進路を実現できる学校とPRができています。

(5) 学校生活全般を見直すアンケート

「授業アンケート」「高校3年卒業間際アンケート」「教職員自己評価アンケート」などのアンケートを実施している。

生徒や保護者や教職員のアンケートを行い、教育活動を振り返っている。下記の資料は、アンケートを行い、在校生・保護者向けに結果を報告している資料である。

2022 年高 3 卒業生満足度アンケート結果

遺愛で、18年連続で行っている高校3年生卒業間際アンケート結果が発表されました。今年度は2月26日(土)予餞会の日実施しました。国公立大学二次試験の翌日、2日日程の場合は2日目に重なるので、欠席者が例年より多くいました。生籍226名中210名の回答があり、回答率92.9%でした。

ここでは過去2年(2021年・2020年)も並べて掲載しました。近年は遺愛生活満足度を100点満点で点数化してもらっています。2022年は91.3点でした。ちなみに2021年は92.7点、2020年は89.4点でした。2016年～2020年の5年間の平均が89.9点なので、2022年は高いほうです。

	遺愛満足度 91.3 点 (100点満点)	92.7 点	89.4 点
	2022 とても良かった+良かった (とても良かった)	2021	2020
朝読書	81.3% (41.1%)	80.3% (34.5%)	69.4% (34.7%)
毎朝の礼拝	77.5% (31.1%)	74.9% (23.8%)	69.3% (24.0%)
遺愛祭	93.8% (59.8%)	98.3% (75.1%)	92.8% (64.8%)
体育祭	87.6% (60.0%)	92.1% (60.7%)	82.4% (51.3%)
合唱コンクール (2022 讃美歌フェスティバル)	81.8% (38.8%)	85.2% (42.6%)	76.5% (44.0%)
修養会	70.3% (27.8%)	71.8% (26.9%)	53.9% (19.7%)
クリスマス礼拝	93.3% (60.0%)	89.1% (54.4%)	81.3% (40.9%)
遺愛生活全体	93.8% (63.8%)	96.6% (71.7%)	86.5% (57.3%)
	2022 とてもあった+あった (とてもあった)		
入学前に女子校への抵抗感があったか?	63.2% (19.1%)	62.3% (11.9%)	66.9% (19.7%)
	2022 とても良かった+良かった (とても良かった)		
3年間過ごして女子校はどうか?	92.3% (67.3%)	94.9% (74.2%)	86.5% (66.3%)

3か年の満足度は、86.5% 94.9% 92.3%であり、生徒は学校生活に満足していることがわかる。また、振り返り活動を行い、次年度の計画や学校行事を見直している。

2. 教育活動の成果について

進路・合格実績からの学校評価として

① これまでの調査・アンケートから

アンケートを見ると、「国公立大学」「難関私大」への進路を希望する保護者に対する期待に応えている。「子どもの個人面談をはじめ学校サポート」も評価が高い。これは、大手予備校の映像講座を採用するなど、上位大学に進学を希望する生徒への教育サポートにも着手している成果であろう。

また、年度ごとに作成している「進路資料」は、質の高い進路情報が掲載されている。この冊子には統計資料、合格体験記、指定校推薦大学、進学講習時間割、学習の手引きが掲載されている。この資料の活用が高い合格実績を出せていることの要因のひとつであろう。

② 合格実績 2018～2022年 MARCH：明治・青山学院・立教・中央・法政大学

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022
国公立大学	43	31	27	31	37
(北海道大学)	4	2	3	7	3
(旭川医科大学)	0	0	0	0	1
(札幌医科大学)	5	2	1	3	1
早稲田・慶應・理科大	9	7	4	7	2
上智大・ICU	7	1	3	3	2
MARCH	31	19	15	33	11

(内訳)

国公立大学 37名 以下 主な実績

北海道大学 3名 札幌医科大学 1名

東京大学 1名 弘前大学 4名 ほかに地方大学が増加

MARCH 11名

明治大学 5名 青山学院 2名 立教大学1名 中央大学2名 法政大学1名

今回の実績は、新型コロナ禍の影響を受け、首都圏の大学進学が減少する一方、地方の国公立大学の進学が顕著に増えている。例えば、中央大学は23名から2名へ大きく減少した。一方、岩手大学・茨城大学・宇都宮大学・新潟大学などの地方大学に合格している。国公立大学の実績が向上したのは進路指導の成果であると評価する。

3. 生徒募集について

(1) 3年ぶりの開催 6月の中学受験 学校説明会

新型コロナ禍の影響により、開催できなかった中学募集のイベントが開催できた。ただ文化祭の開催は延期となるなど、未だに影響を受けている。イベントでは、在校生が工夫をしながら、学校PRをしているが、このような取り組みは評価できる。なぜなら、生徒が日々の取り組みを「振り返り」ことにつながるからである。



2021年学校評価レポートで指摘した「ホームページの更新が必要である」点は、しっかりと改善されている。

今回のヒアリングでは生徒募集の戦略を見直し、また2022年4月に、ホームページの改定により、学校の印象を上げることに成功した。ただ、マーケットの生徒数の減少の影響を受け続けており、引き続き生徒募集の業務は大きな負担となっている。



(学校ホームページの TOP 画面)

4. 学校のこれからの教育構想とその実現に向けて

今回も、教職員が一丸となって「生徒を中心とした」学校づくりに取り組んでいることを評価する。

一方、これからの学校づくりの課題として、例えば新しい学力観に対応する教育活動、学校のデジタル化、コースの再編などを含めた「構想」、教師の働き方改革などがある。いずれの課題も、正解を見つけるというよりも、「最善解」のような計画・施策づくりが必要となるであろう。

現在、プロジェクトチームを組み、将来の構想づくりやその実現に向けての計画を検討している。今後、成果が出ることを期待している。

(文責：コアネット教育総合研究所 川畑浩之)